

U.S. Indicators

発表日: 2020年10月2日(金)

米国 9月雇用統計以降の労働市場の改善継続

～景気回復に伴う労働市場の改善持続～

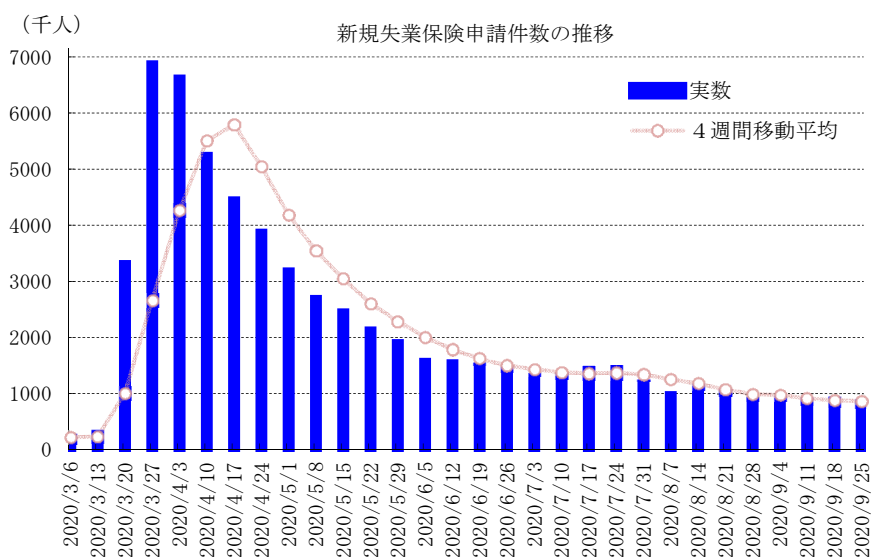
第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
主任エコノミスト 桂畑 誠治 (TEL: 03-5221-5001)

9月26日までの1週間の米新規失業保険申請件数(季節調整済み)は、83.7万件(前週87.3万件)、前週比3.6万件減少し、市場予想中央値(ブルームバーグ集計)の85.0万件を下回った。高い水準にとどまっているものの、景気回復に伴う労働市場の改善が市場予想を上回って続いている。新型コロナウイルスの感染拡大という特殊な状況によって週次統計に季節調整をかけることはより困難なため季節調整前の数値をみると、それでも78万6,942件と前週より4万263件減少している。また、一時的な要因の影響を小さくする4週移動平均(季節調整済み)でも86万7,250件と前週比1万1,750件減少しており、労働市場の回復基調に変化はみられないと判断される。

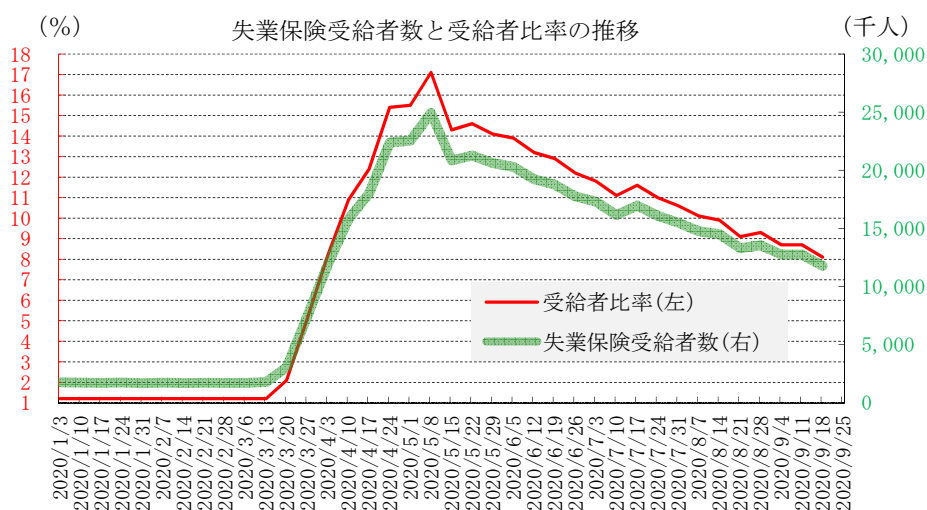
州別の新規失業保険件数では、経済活動再開によって申請件数は前週比で減少しているが、外出制限の解除時期のほか、その緩和の程度、人口の違いによって州ごとに差がでている。9月26日に終わった週の水準をみると、人口が最大で感染者数が増加しているカリフォルニアが22万6,179件(前週比変わらず)と、引き続き高い水準となった。次いで、ニューヨークが6万6,568件(前週比▲3,222件)、ジョージアが4万3,072件(同▲6,349件)、テキサスが4万73件(同▲8,353件)と続いた。

9月の雇用統計調査週(9月6日～12日)後の労働市場の状況では、9月26日までの1週間の新規失業保険申請件数は9月の雇用統計調査週の86.6万件よりも減少していることから、労働市場は改善を続けている。また、9月19日までの1週間の失業保険継続受給者数(新規失業保険申請件数より公表が1週間遅い)は1,176.7万件、9月の雇用統計調査週より▲98万件減少した。また、同週の失業保険受給者比率は8.1%と9月の雇用統計調査週の8.7%から大幅に低下しており、労働市場の予想以上の回復継続を示唆している。

米国では新型コロナウイルスの感染者数・死者数の拡大ペースが高い伸びを続けているが、9月下旬にかけて総失業者が減少しており米労働市場の改善が続いている。ただし、失業保険継続受給者数、失業保険受給者比率ともにコロナ危機前と比較して高い水準にとどまっていることから、労働市場がコロナ危機前の水準を回復するにはかなりの時間が必要となる。



(出所) 米労働省



(出所) 米労働省

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

